

水道の広域化についての、府のヒアリングへの市の回答

1 京都府の質問

広域化・広域連携について、いつまでにどのような形態で実現したいか、その理由、現在の検討状況などはどうか。

2 本市の回答

広域化については、今後10年間で議論するとされているが、10年間という長い期間を設けること自体、取り組む優先度が低いものと受け取れる。

そもそも、人口ボーナス期にある自治体と人口が減少している自治体とでは課題としてのとらえ方が違うので、まず、広域化に前向きな自治体間での議論を先行させるべきではないか。また、統廃合による広域化は、一朝一夕にはできないので、共通する課題に対応した、すぐに効果が見込める分野での事務等の共同化も必要と考える。

広域化は、先行県に見られるように将来の料金統一が一つのゴールである。人口ボーナス期にある自治体の合意が得られないことにより建設負担水量の見直しが行われず、広域化が遅れると料金格差が現状よりも拡大し、広域化のハードルがさらに上がることになるのではないか。